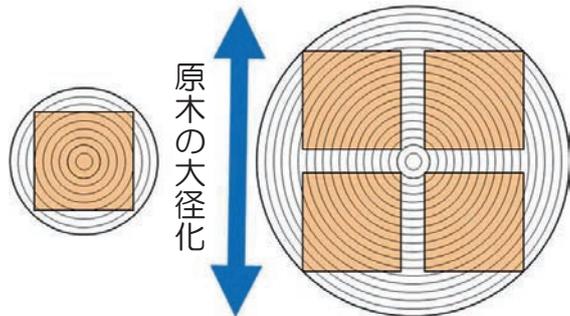


大径木から採材できる心去り材の形状変化を少なくするための乾燥条件を明らかにしました

カラマツ心去りコアドライの乾燥技術

課題名(研究期間) カラマツ心去り材の促進評価方法と適正含水率の検討 (2021~2022年度)



心持ち正角材
(コアドライ)
原木の直径18cm~

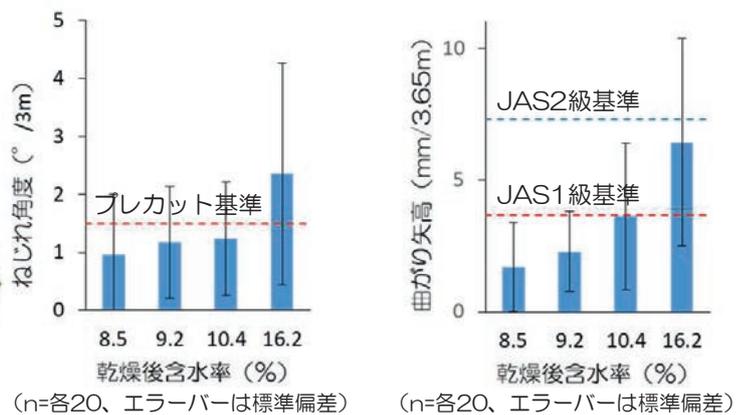
心去り正角材
(四方杵、4本採材)
原木の直径36cm~



カラマツ資源の成熟化により大径木から心去り正角材を採材できるようになり、迅速な品質評価方法や安定した品質の製品を製造するための乾燥条件の確立が必要です。



温度の異なる低湿度環境でカラマツ心去り正角材を自由に変形させ、形状変化の差異を比較しました。



乾燥後含水率の異なる心去り正角材を低湿度環境下に静置して形状変化の差異を比較しました。

成果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■含水率の変化に伴う製材の形状変化を短期間で把握できるようにするため、温度の異なる低湿度環境(常温・50°C・70°C・90°C)における製材の形状変化を比較し、差異がないことを明らかにしました。 ■乾燥後の平均含水率が異なる4組のカラマツ心去り正角材について、冬季の北海道における住宅を想定した低湿度環境での形状変化(ねじれ・曲がり)を比較し、形状変化を少なくするための乾燥後含水率は9%程度と判断しました。
成果の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■90°Cでの形状変化把握は、トドマツ心去り正角材やカラマツ集成材等の形状変化を短期間で把握するために活用しています。 ■コアドライに心去り正角材を加えるため準備中です。
成果の公表	■令和5年北海道森づくり研究成果発表会(2023)
研究担当	林産試験場 技術部生産技術グループ
連携機関	栗山町ドライウッド協同組合、オムニス林産協同組合、丸善木材(株)
特記事項	
備考	